

近畿日本鉄道株式会社 名古屋線 伊勢朝日駅構内において発生した  
鉄道重大インシデント（車両障害）調査について  
（経過報告）

令和4年10月27日  
運輸安全委員会（鉄道部会）

運輸安全委員会は、令和3年11月23日、近畿日本鉄道株式会社の名古屋線伊勢朝日駅構内において発生した鉄道重大インシデント（車両障害）について、令和3年11月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、事実情報に関する情報の入手、原因の分析及び再発防止策の検討のために、さらに一定の時間を要する状況である。このため、本件調査については、本重大インシデントが発生した日から1年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第25条第4項の規定に基づき、以下のとおり当該調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本件鉄道重大インシデントに関し、運輸安全委員会設置法に基づき、鉄道事故等の防止に寄与することを目的として行うものであり、本事案の責任を問うために行うものではない。

## 1. 鉄道重大インシデントの概要

近畿日本鉄道株式会社名古屋線の近鉄名古屋駅発大阪難波駅行き6両編成、特急第0168列車の旅客専務車掌は、令和3年11月23日（火）、伊勢朝日駅付近で列車最後部進行方向左側の旅客用乗降口の扉が開いていることを認め、運転士に列車を停止させるよう連絡した。連絡を受けた運転士はブレーキを操作して列車を停止させた。

指令の指示に従って、旅客専務車掌が当該扉の施錠と全ての扉の確認を行った後、当該扉の監視を行いつつ、列車は運転を再開した。また、列車は次の駅である川越富洲原駅に臨時停車し、当該扉の監視のために助役を添乗させ、近鉄四日市駅まで運転を継続したが、同駅以降の運転は打ち切った。

列車には乗客127名と乗務員3名（運転士1名、担当車掌1名、旅客専務車掌1名）が乗車していたが、転落等による負傷者はいなかった。

## 2. 調査の概要

運輸安全委員会は、令和3年11月23日、本鉄道重大インシデントの調査を担当する主管調査官ほか1名の鉄道事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、運転状況記録の分析、扉の溶接破断に関する調査及び分析等を実施した。

### 3. 判明している主な事実情報

#### (1) 運行の経過

近畿日本鉄道株式会社名古屋線の近鉄名古屋駅発大阪難波駅行き特急第0168列車は、令和3年11月23日（火）、近鉄名古屋駅を定刻18時30分に出発した。桑名駅を出発したときまで列車に異状はなかったが、18時50分ごろ伊勢朝日駅付近で、旅客用乗降口の扉が開いているという内容の連絡を旅客専務車掌から受けたため、運転士は伊勢朝日駅～川越富洲原駅間に列車を停止させた。

列車は、当該扉の施錠と全ての扉の確認を行った後、運転指令者から次の駅である川越富洲原駅に臨時停車させるように指示があり、運転を再開した。その後は近鉄四日市駅まで運転を継続し、同駅以降の運転は打切りとなった。

#### (2) 死傷者

なし

#### (3) 鉄道施設、車両の損傷

なし

#### (4) 開扉した旅客用乗降口の扉の状況

戸閉機械の動きを扉に伝える折戸回転軸において溶接箇所が破断しており、扉を押し付ける力が扉に加わらない状態になっていた。

#### (5) 気象

晴れ

### 4. 今後の調査

本鉄道重大インシデントの原因の究明及び同種の鉄道重大インシデントの再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報を基に、更なる分析のほか、原因関係者からの意見聴取を行う必要がある。

本委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本鉄道重大インシデントの原因等の調査を進める。